

## 【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2023年6月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

### 男女平等ランキング 日本 125位

世界各国の「男女平等」度合いを指数化した 2023 年版「ジェンダーギャップ報告書」を、世界経済フォーラム (WEF) が発表した。日本は調査対象の 146 か国のうち 125 位 (前年は 116 位) で、2006 年の発表開始以来、最低の順位だった。報告書では、教育・健康・政治・経済の 4 分野を分析。男女が 100% 平等な状態に対し、日本の達成率は 64.7% だ。教育や健康ではほぼ平等を達成しつつある一方、政治と経済の分野で後れをとっている。衆院議員の女性比率が 10%にとどまり、女性閣僚も少ない現状を反映した政治は、達成率が 5.7% (世界 138 位) と低迷している。経済も、企業で役員・管理職の登用が進まないことなどから達成率は 56.1% (同 123 位) と苦戦している。世界でも政治と経済分野での課題が大きい。世界全体の男女平等達成率は 68.4% で、前年から 0.3 ポイント改善した。

(ニュースダイジェスト 2023年6月22日より)

① 女性の政治参加を進めるにはどうしたらよいだろうか？

② 企業における男女格差をなくすためにはどうしたらよいだろうか？

③ なぜ欧州諸国はジェンダーギャップ指数のスコアが高いのだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

## 今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール5について解説いただきました。

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



### ジェンダー平等を実現しよう

「ジェンダーギャップ指数」について聞いたことがあるという人も多くなってきているのではないのでしょうか。6月に2023年度の結果が発表されました。最近ではジェンダーギャップの解消に向けたさまざまな取り組みが行われていますが、わが国はスコア、ランクともに昨年より低下して、146か国中125位という結果になりました。男女の同等性は64.7%で2年連続低下しています。首位は14年連続アイスランド(91.2%)で、唯一同等性が90%を上回りました。2位ノルウェー(87.9%)、3位フィンランド(86.3%)となっていますが、4位にニュージーランド(85.6%)がヨーロッパ以外の国として上位にランクインしました。ほかにも中米のニカラグアが7位、アフリカのナミビアが8位と、例年ヨーロッパ勢が上位を独占するランキングの中に、ヨーロッパ以外の国がランクインしてきています。

この指数は、「経済」「教育」「医療へのアクセス」「政治参加」の4つの分野において、それぞれにいくつかの指標が設定されていて、その結果をスコアにして提示しています。わが国は「教育」「医療へのアクセス」では高いスコアを獲得しましたが、「経済」「政治参加」では非常に低いスコアでした。女性国会議員の数や地方議会の議員数などが指標になっている「政治参加」における同等性は、世界全体では22.1%ですが、わが国は5.7%で世界138位、企業での女性管理職数やスキル形成などが指標になっている「経済」は56.1%で123位でした。この報告書では、世界的に「政治参加」のジェンダーギャップを埋めるには162年、「経済」は169年かかると報告されています。ジェンダーギャップを解消する取り組みが世界各地で行われていますが、これらはDEI(多様性、公平性、包括性; Diversity, Equity, Inclusion)と呼ばれています。多様性(ダイバーシティ)は、人の考え方、宗教、性格、性的指向、性別、障がいの有無、社会的地位、学歴、職歴等のあらゆる違いを「個性」として互いに受け入れ、尊重することです。公平性(エクイティ)とは、人々のニーズや状況に着目し、機会の公平性を追求することです。包括性(インクルージョン)とは、さまざまな個性が受け入れられ、誰もが個性を発揮して社会参加できるような環境をつくっていくことです。わが国でも、さまざまなDEIに関する取り組みが推進されていますが、世界の水準からすると必ずしも成果が出ているとは言えないかもしれません。男女平等という枠組みにとどまらずに、DEIが当たり前となる社会をつくっていかねばならないのです。